



Rin Rin No.78

りんりん会報 平成26年3月発行



乳がん体験者の会
りんりんの会

凜（りん）として…自分のために
輪（りん）として…仲間のために
鈴（りん）として…社会のために

例年になく大雪と寒さにもそろそろ別れを告げ、暖かな春を迎えようとする時期、3月に入りました。この時期は卒業式や送別会等の機会が多くなり、ちょっと寂しいお別れのシーズンになりますが、そこからまた新たな出会いや次の未来に向かってステップする為のスタートの準備期間にも変えられる時期でもありますね。

りんりんの会も、今年度の総決算としての総会開催と26年度の年間計画作成の為にただ今奮闘中ですが、新たな出会いや輝く未来を信じて、今まで同様に地道に歩いて行きたいと考えています。

今後も皆さんと一緒にピンクリボン運動（乳がんの早期発見・早期治療・サポート等啓発活動）を広く社会に発信して行けたら・・・とも考えていますので、ご協力、宜しくお願い致します。

★りんりん活動報告(H25.12月~2月)です!★

●クリスマス会・・・参加者 18名+吉田 Dr

12/14(土)
9:30~

3グループに分かれて、それぞれのグループでの交流・相談を行いました（仕事復帰の不安・リンパ浮腫・術後間もない方の不安・旅行や食べ物の情報等が話題に上がりました。）

途中から吉田先生が参加して下さり、サンタの衣装を着て参加者の方々の質問等に回答をいただきました。その後、くじ引きによるプレゼント交換、更にキーボード演奏に合わせてクリスマスソングを全員で歌い、楽しく終了となりました。来年は新しい病院でのクリスマス会になりますね。楽しみです。

●情報交換会・・・参加者 18名

1/25(土)
9:30~

お子さん連れで初めて参加して下さった方がおり、同じように子育て中の方との交流があるといいのかな、とも感じました。また、久しぶりに参加して下さった方が、初参加時、落ち込んでいた自分を皆さんに励ましていただいたおかげで元気に仕事にも復帰できたので、『これからは励ます側になりたい』と話され、とても嬉しく思いました。

●温泉に入ろう会（鳴子温泉一泊ツアー）・・・参加者 6名

2/8(土)
~9(日)

今回、鳴子観光ホテルに泊まったのは、何とあの数十年ぶりの大雪が降った日・・・。

昨年も天気が悪く(暴風雪)、今年は逃れようと日程を早めたのに関わらず、なんて運が悪いのかしら、とガッカリだったのですが、宴会もお部屋も貸切風呂も、ついでに帰りの電車も通常通りに運行(小牛田まで)していて、全てがラッキーな「りんりん」でした。

今回は諸事情により参加者は少なかったのですが、隣の民謡クラブの団体の宴会に負けないようにカラオケも歌いまくったし、3回もお風呂に入ってお肌もツルツル綺麗になった(かもしれない?)し、楽しい一晩を過ごすことが出来ました。

温泉にみんなで入ることで生きている事への自信につなげましょう!と言う思いでのこの取り組みは、今後も頑張らず一つと継続していこうと考えています。皆さん、次回は是非ご参加くださいね!

★研修会の報告(H25.12/1(日)第2回 With You 東北)です!★

*前回の会報で『第2回 With You 東北～あなたとプレストケアを考える会～』と題して、吉田先生から報告がありました。聖路加国際病院精神腫瘍科の保坂隆先生による全体講演(演題『となりのトトロが教えてくれた家族の子カラ』)がとても分かりやすく、心に残るような内容でしたので、皆さんにもお伝えしたく、参加した会員に講演内容をまとめていただきました。

With You 講演会(『となりのトトロが教えてくれた家族の子カラ』)のご報告

りりんの会会員

この日、講演を下されたのは保坂隆先生、61歳です。医師というかたい肩書きとは打って違って、見るからに優しい穏やかな方でした。吉田先生が研修医として勤務したこともあるという、聖路加国際病院(せいろかこくさい…)と読みます。なんだかカッコいい響きですよ(え☆)の精神腫瘍科医長をされています。先生の診察室には丸テーブルが置いてあって、そこには4種の神器として、患者さんのカルテ、患者さん用のPC、カレンダー、ティッシュがセットされているんだそうです。告知を受け動揺する方も多いそうですが、先生はいつも、

がん=死と思っているみたいですね。

でも、ちがうんですよ。それは……

というお話をされるのだそうです。

『2人に1人はがんに罹り、10人に3人はがんで死ぬ』と言うデータもありますが、個々に隠れている20%の人はどうしているのでしょうか?。自分は、がんも糖尿病や高血圧と同じ慢性疾患ととらえている…そんな前置きから講演が始まりました。

本日のテーマは、国民的アニメともいえる宮崎駿監督の『となりのトトロ』。ご覧になった方もおいことでしょう。なんとこの作品はSFであり、医療ドラマそのものだと。いったいどういうことなのでしょうか。

思い出して下さい。妹のメイには見えるトトロも、何故かサツキにははじめ見えませんでした。それは二人が幼児と少女の2面性を象徴しているものであり、10歳のサツキも号泣して4歳児に退行したからこそ、トトロと出会えたのだと言っていました。人はピンチに立たされたとき「子どもがえり(退行)」したりするものなのですが、これは心の柔軟性を示すものであって、(恥ずかしいことではなく)大事なことなのだそうです。告知を受けた衝撃のあの時、落ち込んで泣いた事もありますが、それによってこれまで見えなかったものが見える様になったこと…あると思います。いや、あると信じたい!!

そして、あの「トトロ」、何か手伝ってくれましたか?という質問。実際に二人をお母さんの入院する病院に連れて行ってくれたのは「ねこバス」で、それは立派な道具的サポートと言われるものなのだそうです。そして「トトロ」は情緒的なサポートをしていていた。その他にも情緒的ソーシャルサポートなど、医療の現場にもいろいろあって、どの役割も大切なのだそうです。社会的に孤立している患者さんは、様々なソーシャルサポートを受けている患者さんより死亡率が高いというデータもあるそうですから、やはり人間って社会とつながって生きていく存在なのだと感じずにはられません。(患者会でのつながりやWith You 東北への参加も、前向きに生きていくためには欠かせない存在なのだということがここから見えてきますね。)

宮崎アニメの中でもお気に入りの「となりのトトロ」でしたが、見る人の視点によってこうも見方が違うのか…と感心してしまいました(笑)子どもにしか見えない異次元を描いたSFであり、ソーシャルサポートを教えてくれるこの医療ドラマを、吉田先生が見たことがあるのかどうか、とても気になるところですが、同じものを見てもいろいろ受け止め方が出来るということ、今回の講演で教えていただいた気がします。ガンという病気も、悪いことばかり…と言うわけでもないのかもしれないかもしれませんね。(私はそこまで達観しているわけではありません。あしからず)

<主な著者を紹介します>

- ①「がん」から もう一度 人生が始まる (PHP 研究所)② 50歳からの人生を楽しむ老後術 (だいわ文庫)
他多数 ※ ①についてはりりん事務所で貸し出し中です。

インフォームド・コンセント

「説明と同意」と訳されます。手術をする前に、死ぬかも知れないという直接的な言葉は使わないにしても、何が起るかわからないという事を説明し、それを理解・納得した上で手術を受けることに同意願いますということです。皆さんもサインした覚えがあるでしょう。手術に限らず、麻酔でも放射線でも、抗癌剤や造影剤投与でも何が起るかわからないというのが医学の世界です。どんなに気をつけても、絶対に失敗しないという無謬性などみじんもありません。治ってよかったとホッと胸をなで下ろすのは患者さんだけでなく医者も同じです。治るかどうかなんて風邪一つでもわからないのです。しかし、その説明のために膨大な時間が割かれていることも確かです。時間は限られているので、ある程度省略してしまうことは多々あります。ですから、詳細を聞かなくても、何らかの医療行為を受ければ(手術だけでなく、検査や服薬も)、何かしら自分にとって不利益なこと(副作用、合併症など)が起りうるということを、常識として知っておいていただきたいと思います。

問題は、その不利益なことが自分あるいは自分の家族にふりかかった場合です。不利益を被るかも知れないという話は理解できても、自分のことになると、なぜ自分が？何かミスしたんじゃないかなどと、非論理的思考に陥り、原因を医者へのミスに求める人達は少なくありません。

昨年末、サザンオールスターズの桑田佳祐さんが一人紅白歌合戦というライブをやっていたのをテレビで見ました。昭和から平成にかけての歌謡曲 55 曲を立て続けに熱唱したのです。彼は食道癌で手術されました。あの姿を見て食道癌の患者さん達は感動し、多大な勇気をもたらしたと思います。一方、歌舞伎役者の中村勘三郎さんは同じ病気でこの世を去りました。術後の誤嚥性肺炎、ARDS(急性呼吸窮迫症候群:重症な疾患、感染症、外傷、手術などをきっかけに突然引き起こされる致命率の高い呼吸不全)といわれています。外科医であれば、食道癌術後に誤嚥(むせること)したりARDSになり亡くなる人がいることは誰でも知っています。また、桑田さんのように順調に回復できる人がいることも知っています。彼らの違いは何なのかわかりません。手術はどちらも成功しましたが術後経過は全く違いました。

医療とはベストを尽くせば結果がついてくるものではなく、ベストを尽くしても結果が思わしくないことが多々あります。医療ミスや事故は無くても、滅多にないような合併症のため患者さんが亡くなってしまったという経験は私でさえ何度かあります。我々にも予想外のことで医学的にも原因不明で何ともしようがないのですが、ご家族にとっては不運の一言では納得できません。必ず、医療ミスではないのか、隠蔽しているのではないのかと疑われます。このことは非常に心外であり、信用されていないのだと思うと、正直、残念というよりむしろ口惜しいと思うこともあります。我々医療者にできることは、逐一説明し納得して頂くしかありません。

「説明と同意」という言い方は、どうも上から目線のような気がします。治療しないということも含めて「説明と選択」とした方がいいような気がします。医師の説明を訊いて納得し、治療による利益(効果)と不利益(合併症など)を天秤にかけて、患者さん自身が自分が受ける治療法をよく考えるようになるからです。賛否両論あるでしょうけれど、医師の責任回避を目的とするのではなく、特に不利益を被る可能性についてよく知っていただきたいと思うのです。

★次のりんりんの開催日は4月19日(第3土)です！★

- 総会と『Dr 吉田の乳がん講座』を予定しています。今回は病気のことだけではなく幅広いお話を吉田先生から提供していただくと共に、体験者による体験談も予定していますので、お楽しみに！
多数の方々のご参加をお待ちしております。(会員以外の方でも参加可能です。)

* 9 時 30 分 ~ 職員休憩室にて 参加費:300 円(資料・お茶代) *

連絡窓口：大崎市民病院・相談支援センター ☎ 0229-23-3311